

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900047
法人名	社会福祉法人鷹羽会
事業所名	グループホームひまわり苑
所在地	福岡県田川郡大任町大字大行事519-1
自己評価作成日	平成28年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年10月21日	評価結果確定日	平成29年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲の環境は、田園風景が広がるのどかな田舎町です。敷地や建物は広々と開放的で明るい日差しも差し込み恵まれた施設だと思えます。床材はクッション材を使用して転倒してもけがをしないようにと配慮されています。近所の方からも気にかけていただき、野菜をいただいたり草刈りに来ていただいたりとおたたかい支援をいただいています。近くにはたくさんの方が集う道の駅があり、四季の花を見に行ったり、食事やドライブの途中に寄ったりと利用しています。今年も誕生月には各自のリクエストを取り入れて好きなものを食べに行ったり、行きたいところに行ったりと、個々の希望をかなえられるようにプランを立てています。環境に恵まれたこの場所でその方らしい生活を維持できるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町役場職員及び地域包括支援センター職員の参加を得ている運営推進会議の中で、今年度は災害対策を重点的に取り上げ、活発な意見交換が行われている。近隣の同法人事業所との連携体制や防災マップの共有、消防団への声掛け等、自然災害も含めた対応について検討を重ねている。職員育成にも力を入れており、全職員の外部研修参加機会を確保し、積極的に職員個々のスキルアップを支援している。日常の暮らしは、90代を迎えられている利用者の方が多く、少しずつ重度化へと移行している中で、馴染みの関係性や役割づくりを大切にとらえ、暮らしの継続を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)		1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という理念とともに、「思いやり」や「チェンジ」も付け加えて理念の共有に努めている	法人理念のもとに、職員の意見を反映しながら加筆し、事業所独自の理念を掲げている。目に付きやすい場所への掲示や外部研修参加を通じて、理念の共有や浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方とは挨拶を通して触れ合っている。リハビリ体操やクリスマスなどの行事、催し物にはご近所に声をかけることもある	民生委員の方が来訪し、草刈りを手伝って頂いたり、自然災害に備えて情報提供を受ける等、日常の中で交流を重ねている。また法人としても、地域の恒例行事となりつつある敬老会バーベキューや近隣公民館の鍵の管理を担当する等、地域の中での存在を高めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から見学、説明の要望があれば快く応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している運営推進会議では地域、行政、包括支援センター、家族の方々に集まっていたき苑の状況報告や取り組みにご意見をいただいている	家族や複数の民生委員、町役場職員、地域包括支援センター担当者等の出席を得て、運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。行事報告や事故報告を行い、災害対策等について話し合いが行われている。議事録には参加者の発言がわかりやすく記載されており、忌憚のない意見交換が行われていることが伝わる。町役場及び地域包括支援センターより、介護保険制度や誤嚥性肺炎等に関する情報提供が行われている。	現状として家族の参加する機会が少なく、スケジュール調整や案内方法、開催内容の工夫等の取り組みが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場担当者にも運営推進会議に参加していただき、苑の現状報告をし、行政からのアドバイスをいただいている。災害時の避難については今年度特に取り上げている	運営推進会議には、町役場職員及び地域包括支援センター担当者の出席を得ており、制度等に関する情報提供や災害対策に関するアドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室にカギはなく、日中は施錠していない。ベッド柵を四方に取り付けたり、手袋、ベルトなども身体拘束に当たることを職員に伝え認識を深めている	日中、玄関の施錠は行っていない。少しずつ重度化へと移行している中で、身体的拘束とともに、言葉や対応による抑制への意識を高め、職員間での共有認識を図るようにしている。また、環境整備の工夫や日常的に下肢機能の維持・活用に向けた働きかけが行われる等、リスク軽減にも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は職員全員が高齢者虐待防止についての研修を受けた。あらためてどんなことがいけないことなのかを再認識した		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については内容が難しく例年管理者が研修を受けているが、今年度は介護職員にも受けてもらい、意識を持って他の職員にも広めてもらいたい	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員2名が外部研修に参加し、内部での伝達を図っている。現在、制度を活用している方はいないが、資料を整備し、必要時には情報提供を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において契約書、重要事項について説明し、確認と同意をいただいている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、要望は日々の生活の中で管理者や職員が聴いたり、くみ取ったりしている。家族からの意見、要望は面会時や運営推進会議時に出していただき検討している	法人全体で開催される敬老会バーベキューや事業所でのクリスマス会等、家族の参加する行事も多く、コミュニケーションを深めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り時に職員の意見や提案を聞き、全員で検討し反映できるよう努めている	月に1回、職員全員参加を基本とする会議を開催し、情報共有を図り、意見や提案の収集に努めている。業務改善や個別のケアについて話し合いが行われ、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は資格取得など職員の質の向上を促し、職員の努力や実績を認めている。定期的に食事会や催し物などを設け、ストレスの多い職種に理解を示し、発散の機会を提供してくれている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用に当たっては年齢や性別に関係なく本人の意欲を重視している。外部研修を促進し、学びたい意欲のある者を応援し、援助している	職員体制は安定しており、採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。全職員に外部研修への参加機会があり、個別のスキルアップを奨励している。離職は少なく、職員体制は安定しており、風通しの良い関係づくりやストレスケアへの配慮等、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社会福祉協議会や市町村などからの人権研修には積極的に参加を勧めている。また、新聞記事などからの新しい情報も取り入れるようにしている	高齢者虐待防止や権利擁護、尊厳と権利擁護、理念等をテーマとする外部研修に参加し、様々な視点から人権への意識を高めている。ストレスマネジメントに関する外部研修にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の内部研修や社会福祉協議会などからの研修への参加、スキルアップのための資格取得を応援し、受講を勧めている。研修日は就業扱いとしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大任町ケアマネ連絡会、田川地区介護サービス事業所協議会主催の研修会参加や同じ法人内の他施設の職員との勉強会を定期的で開催している。他のGH同士の見学も実施した		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何でも言える関係を築くことが大切であり、そのために日頃の会話や接し方に気を付けている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にその方の情報をたくさん集めるようにしている。その中で家族の要望や不安に思うことを聞き出せるよう努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族やご本人との会話の中から情報収集し得たことから、今一番してもらいたいことが何かをつかむよう努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員という立場だが、それ以上に長時間生活を共にしている家族のような気持ちで接している。しかし節度は大切であり、行き過ぎないよう適度な関係を保っていくよう務めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の一番の理解者は家族だが、職員も気持ちは家族同様であり、家族とともに支援していく気持ちを常に持っている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の主治医を継続し、安心感をもってもらう。また行きつけのお店やなじみの方との交流が継続できるよう支援している	入居以前からのかかりつけ医との関係性を大切にとらえ、受診を支援している。行きつけの店や馴染みの商店街への外出等も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	居室にこもる方はおられず、ほとんどの方は 1日をリビングで過ごされている。多少のいさ かいはあるがそれは自宅にいてもあり得るこ とで、自然な交流ができるよう支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られても職員が面会に行ったり、 今でも家族との交流が続いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	今年も誕生日にはその方の希望を取り入れ た食事や外出を計画している	安定している職員体制の中で馴染みの関係性 が築かれ、担当職員を中心に、日常の言葉や仕 草、行動等から推し測り、思いや意向の把握に 努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	お一人ずつそれぞれ担当の職員をつけ、ご 家族や日常会話の中からその方の生活歴を 聞き出しまとめている。夜勤時に記録を読んで その方の人となりをつかむようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックでその日の体調を把 握し、日常会話によって心の状態を察するよ う努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	職員会議で担当者が一人一人のその月の 状態(健康面や生活面)を報告し、家族の面 会時には状況報告をして要望や意見がない かたずねている	本人、家族の意向を踏まえ、モニタリングや各担 当者を中心とするカンファレンス、日々の実施状 況の確認等を通じて、現状の確認と見直しの必 要性について検討している。本人、家族の役割 やリハビリ、外出等を大切に与えている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの記録は細かくチェックし ているが、気づきや工夫までは記録されてい ないことが多い		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の中で発せられる何気ない言葉や様子から何を望んでおられるかを感じ取り、実現できるよう努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の施設や自然を活用し、自宅にいるような感覚で過ごしていただきながら、自宅ではできない体験もしていただけるよう支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自宅におられた時のかかりつけ医をそのまま継続してもらっている	入居以前からのかかりつけ医を尊重し、基本的に職員が受診を支援している。週に1回、訪問看護師が来訪し、記録も整備されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医への受診内容を週1回の訪問看護来苑時に報告し、アドバイスを得ている。体調が悪くなったときは受診前に相談したり、24時間体制で夜間でも急な体調の変化に相談に乗ってもらっている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中でも職員が面会に行き病院関係者から状態を聞いて様子を把握している。退院指導時は家族とともに医療面や食事面のアドバイスを受け、退院後の苑での生活の参考にしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明して理解を得ている。施設のできることとできないことをきちんと説明するよう努めている	重度化した場合や終末期のあり方については、事業所としての方針を明文化し、入居時に説明している。状況の変化に伴い、家族や医師、職員との話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が実施する救命救急講習への受講を勧めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報、誘導、消火など年2回避難訓練を実施している。そのうち1回は消防署に来てもらい適切なアドバイスを受けている。また地域、行政の方と一緒に災害時の避難場所の提供をいただいたり経路について話し合っている	今年度の運営推進会議は、特に災害対策を中心に意見交換が行われている。年2回、消防署の指導のもと、夜間帯を想定した訓練を実施し、地域消防団にも声かけを行っている。自然災害に対するマニュアルを準備し、近隣の同法人事業所との連携体制づくりに取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人一人を尊重し、プライバシーを損なわないよう居室への出入りには声かけをし、言葉遣いにも配慮しちゃん付けやあだ名で呼ばないように話している	呼び名や声かけ、対応等については、安定している職員体制を活かした馴染みの関係性の構築と、馴れ合いにならないよう振り返る機会を持てるよう心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中でさりげなく希望や思いを聞き取り、実現できるよう配慮している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方の中で、みんなでそろってできることと、一人一人のペースですることを分けて支援している。したくないことは無理強いしないことにしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や病院受診時には職員と一緒にその日のお天気や気分に合わせて洋服を選んだりお化粧をしていただく。買い物時には欲しいものなどを購入できるよう支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や暦にあった献立を取り入れ、なるべく手作りの家庭的な味になるよう工夫している。下ごしらえ、配膳、食器洗いなどそれぞれのできること職員とともにしていただいている	近隣の道の駅やスーパーに買い物に出かけ、調理準備や配膳、食器洗い等、希望や役割づくりを意識して力を発揮してもらっている。プレート料理や外食、弁当を持って花見に出かける等、その時々々の場面を楽しむ機会がある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに合った食事量を考え、食べやすい大きさに切って提供している。また毎日の水分量、食事量を記録し、十分な量がとれているかチェックしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず職員が見直し仕上げている。訪問歯科の指導により定期的な受診も利用し、口腔スポンジや舌ブラシを使って口内の清潔に気をつけている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を細かくつけ、状況に応じて声掛け、誘導、見守り、介助を行っている	個別の排泄状況を細やかに確認し、トイレでの排泄を基本とし、個別の支援に努めている。水分摂取量の確認や食物繊維の摂取、マッサージ等により、便秘予防に配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を記録し、1日の目安に達するようにしている。野菜の多い食事に心がけ、毎日の運動やお腹のマッサージなどもとり入れている。主治医に相談し薬を利用することもある		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	それぞれにあった湯温や体調に合わせた入浴の仕方を工夫している。入浴順はいつも同じではなく、その日の気分を配慮して決めるようにしている	一日おきの基本的な入浴スケジュールを設定し、その日の体調や希望等に応じて柔軟に対応している。必要時には職員2名で対応し、湯船にゆっくりと浸かれるよう支援している。リラックスした時間の中で、会話や歌を楽しみ、新たな気づきを得ることもある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングのテーブル席やソファで過ごされることが多いが、体調が悪い時や足に浮腫みが出ているときは居室のベッドで休んでもらっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み方や種類の変更があったときは随時申し送りノートで職員に伝えている。服薬時にはご本人と声出し確認を行い、飲み終わった袋を取り置きしている。薬の説明書もいつでも確認できるようファイルに閉じている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のあることや得意なことを生かしてもらえよう一人一人あったプランを立てている。晩酌する方は夕食時に提供し、新聞を読まれる方には読みやすいよう場所を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの道の駅には季節の花を見に定期的に訪れている。そこでの外食やおやつはとても楽しみにされている。お元気な方には職員の食材の買い物に同行していただいたり、誕生日にはカラオケやボーリングへの希望もある	近隣の道の駅おおとう桜街道には、季節の花木やイルミネーションを見に出かけている。また、後藤寺ひなめぐりや弁当を持って花見に出かけたり、敷地内にテーブルを出し昼食を摂ることもある。誕生日には希望を聴き取り、個別の外出支援が行われることもある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方はお財布を持っていたき、病院受診時や買い物の支払いをしていただく		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から品物が届いたら、必ずお礼の電話を入れていただく。はがきなどが届いたときはお部屋に飾っていただくこともある		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ思い入れのある品物を飾っていただいている。写真や家族からのプレゼントがたくさん並べられている	共用空間は天井が高く、明るく清潔感がある。肘がつきやすく姿勢保持に配慮された食卓テーブルや、個別のリクライニングチェアが配置され、その時々に応じたくつろぎの場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓の他に一人一人にリクライニングのソファが用意されている。一人になりたいときは居室でくつろぐことも自由にできる		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においてあるものは入居時に自宅から持ち込まれたもので、思い思いにイスやソファ、仏壇などを置かれ、ご自宅にいる感覚をずっと持っていただいている	クローゼットやタンス、ベッドが用意されており、椅子や仏壇、大切な写真等が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。また、御仏飯を供える等の支援も行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は全体を見渡せるオープンな構造でどこに何があるかがすぐわかるようになっている。安心して安全な空間を心掛けている		